

伝統ある景観を次世代へ めぶきの森かんら

町ふるさと景観表彰式が5月28日に行われ、めぶきの森かんら(矢野勅仁園長)園舎の屋根瓦が表彰されました。

令和4年公私連携・幼保連携型認定こども園として開園した同園の正面玄関には「十能瓦」が敷かれています。「十能瓦」は良質な粘土が取れたことから明治期に福島小川地域で生産され、現在、甘楽福島瓦協同組合が復刻に取り組んでいます。



写真中央が矢野園長、左は田村一郎景観審議会議長

この景観が地域の歴史や伝統を受け継ぎ、ふるさとの風景を子どもたちの心に刻んでいます。

矢野園長は「園舎が昔からここにあったように感じてもらえるとうれしいです。これからも風土を生かした地域づくりへ協力するとともに、子どもたちの地域への愛着心を育てる教育に取り組んでいきます」と受賞の喜びを語りました。



約1200枚の十能瓦が敷かれた正面玄関

子ども参加型ミュージカル オーディション開催

甘楽町発足65周年記念事業の子ども参加ミュージカル「^{かめがもり}瓶ヶ森の河童^{しばてん}」の出演者オーディションが6月22日、ら・ら・かんらで行われました。

オーディションには町内の小学生55人がエントリーし、東京のプロの劇団「ふるきやう」の審査員の前で、歌や踊りなどを披露しました。オーディションに挑んだ太田歩乃禾さん(小幡小・2年)は「少し緊張したけれど、とても楽しかったです。出演できることが決まったら、おけいこをがんばりたいです」と話しました。

7月初めに出演者が決定し、夏休み中の練習を経て、8月31日(土)の町文化会館での公演本番を目指します。



^{かめがもり} ^{しばてん}
瓶ヶ森の河童

8月31日(土) 午後2時
甘楽町文化会館 大ホール

チケットは大人3,000円、中学生以下1,000円(当日券は各500円増し)で甘楽町文化会館などで販売中

人権擁護委員が表彰されました

富岡人権擁護委員協議会の総会が5月29日、富岡市生涯学習センターで開かれ、人権擁護委員の森田 稔さん(善慶寺)が前橋地方法務局長表彰を、山田幸代さん(福島)が群馬県人権擁護委員連合会長表彰を受賞しました。

森田さんは平成31年から、山田さんは令和2年から同委員を委嘱されており、地域住民の皆さんに人権思想を広めてきました。お二人は、特に小中学校を中心に人権教室を通じて人権侵害が起きないように啓発活動に尽力しており、その功績が認められたものです。



森田さん

山田さん

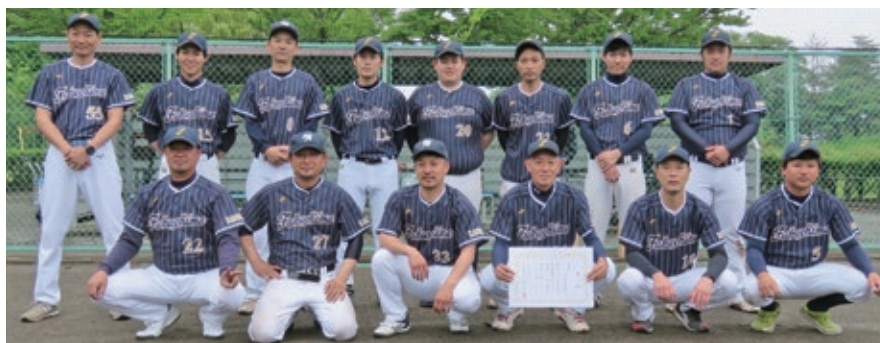
優勝は20区若連会！町春季野球大会

第47回町春季野球大会の決勝戦が6月2日に甘楽野球場で開かれ、20区若連会が優勝しました。

大会結果、個人賞は次のとおりです。(敬称略)

優勝…20区若連会(右写真)

準優勝…柴田ブルズ



☆最優秀選手賞…斉田竜輔(20区若連会)

☆殊勲賞……………齋藤芳充(20区若連会)

☆敢闘賞……………松井崇容(柴田ブルズ)

土に触れて学ぶ 農業体験学習

新屋小学校(中島 剛校長)の4年生が6月5日、地元農家とJA甘楽富岡甘楽支所職員の皆さんの協力のもとタマネギの収穫体験を行いました。大きく育ったタマネギを児童たちが引き抜き始めると、あっという間に30ケース程の収穫コンテナがいっぱいになりました。

金田彩葉さんは「たくさん収穫できて楽しかったです」と話し、父親の代から20年以上にわたり体験学習に携わっている黒澤 篤さん(白倉)は「子どもたちに農業の魅力や食の大切さを肌で感じてもらう機会を今後も継続して行っていきたい」とその思いを語りました。

7日には5年生が、5月中旬にもみまきを行い育った米の苗を自分たちで歩いて田んぼまで運び、JA甘楽富岡青年部新屋支部の皆さんの指導を受けながら植えました。田んぼに足を入れると土の感触に最初は戸惑いを見せる子もいましたが、慣れてくるとみんな楽しそうに苗を植えていました。

普段できない経験に児童たちのたくさんの笑顔が見られました。



「振るようにすると簡単に抜けるよ」と声を掛けあう児童



▲悪戦苦闘しながら苗を植える児童

中学生が自らの思いを伝える 少年の主張



後列左から 斎藤さん、山口さん、小瀬さん、鈴木さん、中島さん、
荒木さん、吉田さん 前列左から 清水さん、松井さん、土筆さん

第38回少年の主張甘楽町大会が6月14日、文化会館で開かれました。

代表生徒10人は、家庭や学校生活の中での体験を通じて感じたことなどを自分の言葉で力強く主張しました。堂々と発表する姿に会場内からは大きな拍手が送られました。

審査の結果は次のとおりです。最優秀賞の3人は、6月29日に上野村役場で開かれる西部地区郡大会に出場します。

賞	学年	氏 名	題 名
最優秀賞	2年	清水空麗	多様性と校則
	3年	松井望音	私たちが継ぐ
	3年	土筆心愛	本当の思い

※各賞の学年順に掲載しています。(敬称略)

※発表内容は町ホームページをご覧ください→



賞	学年	氏 名	題 名
優秀賞	1年	斎藤真優	言葉の重さ
	1年	山口啓太	「おはよう」から始まる毎日
	1年	小瀬暁人	ありがとうの大切さ
	2年	鈴木美和	一口でも多く
	2年	中島千菜乃	その時あなたはどうか行動する?
	3年	荒木皐佑	「普通」は誰が決めるのか
	3年	吉田 蓮	言葉の持つ力

ふるさと農園でライブ

甘楽ふるさと農園(上野)は6月9日、開園25周年記念イベント「Yae × 木下尊淳『笑顔のために…。』ライブ」を開催しました。Yaeさんは全15曲を歌唱し、新緑の芝生広場に澄み切った音色が響き渡り、町内外より集まった観客約160人を魅了しました。

同農園組合長の吉田恭一さん(上野)は「ライブを多くの人に楽しんでもらえたのがうれしい限りです。これを契機にさらに農園が発展できるよう管理業務に取り組んでいきます」と話しました。



Yaeさんの歌声に合わせリズムを刻む木下さん

ラリーカーに大興奮

全日本ラリー選手権モントラレー2024が6月8・9日に群馬県内を舞台に開催されました。

選手権コースに向かう競技車両が9日、町文化会館駐車場に立ち寄りました。最上位クラスのラリーカーを間近で見られることもあり町内外から多くのファンが集まり、写真を撮ったりドライバーに声援を送るなど盛り上がりを見せました。

松井颯大さん(福島小・6年)は「レースに出ている車を目の前で見られて興奮しました」と話し、次々に到着する車両を食い入るように見つめていました。



オール甘楽の地酒を

甘楽の地酒プロジェクト委員会は6月2日、甘楽北部の圃場で田植えを行いました。約50人が水田に素足で入ると横一列に並び、ぬかるむ足元に気を取られながらも15センチ程に成長した苗を植えました。

10年の節目を迎えた同プロジェクトは『オール甘楽の地酒づくり』を掲げ、甘楽の水で町民が育てた米を原料に地元酒蔵が日本酒に仕上げています。

田植えを終えた参加者は「良いお米ができて、おいしいお酒を味わうのが楽しみ」と話しました。



食用米「ひとめぼれ」を2、3本ずつ手に取り植える参加者

初夏の鉢植展示会

甘楽町鉢植クラブ(田中宏一会長・会員24人)の初夏の鉢植展示会が5月24～26日、文化会館で開かれました。色鮮やかなサツキなどの主木と新緑の美しい山野草などを配した席飾りのほか、定番の飾り方に捉われない「自慢コーナー」を設けるなど数多くの作品が並び、来場者からは感嘆の声が上がりました。

田中会長は「小ぶりなサイズも多く、鉢植えをより身近に感じてもらえる展示となりました。興味のある人はぜひ会員になってほしい」と話しました。



作品を前に来場者と会話が弾む田中会長(左)

瓦の歴史を学ぶ

福島小学校(新井綱人校長)の3年生が、福島地区の瓦の歴史について学ぶため、笹森稲荷神社前にある「ギャラリー瓦窯」を訪れました。

児童たちからは「瓦はどうやって作っているんですか」「作るのにどれくらい時間がかかりますか」などといくつも質問が飛び、新井 功さん(福島)と小林 保さん(福島)が1つ1つ丁寧に答えました。

児童たちはかつて瓦を焼いていた窯の内部をトロロコに乗って見学し、記憶に残る経験をしました。



パン作りに挑戦

町民有志による野外活動グループ「稲含塾(浅香勇二代表)」は6月9日、旧甘楽第三中学校の校庭で野焼きパンとカレー作りを行い、町内の児童とその保護者ら約100人が参加しました。

ビニール袋の中に材料を入れ袋の上からこねて生地を作り、発酵させた後に竹の棒に巻きつけ焦げないよう回しながら炭火で焼き上げ、パンを完成させました。

大谷陽菜汰さん(福島小・4年)は「生地を巻きつけるのは難しかったけれど、バターの香りがする焼きたてのパンはおいしい」と笑みを浮かべました。

